あつたと信じて居ります。

都會の兒童菽麥を辨ぜず

高島平三郎　述

余は母の喪に丁り毎日大崎の寓を出でて池上の墳塋に詣ず。時々長兒（年十四歳にして中學校の一年生）を伴ひ二里にして近き野路を歩み路上目に觸るる草木の名を問ひ試む。其の無知の甚しき余をして喫驚せしむるものあり。因りて思へらく是れ偶〻余が兒の特性自然物に對する興味薄くして然るならんと。其の後他の同年輩或ば既に青年の域に入れる學生に就きて之を試むるに宛も我が兒の無知なるが如くに無知なり、都會の學校にて教育せられし兒童にかかる傾向ありとすれば教育者は之が改善に大に注意せざる可らず。近來教育の法議論徒に多くして實效之に伴はざるは一般の弊風たり。都會の兒童菽麥を辨ぜざるもの或は此の弊に基かざるを知らんや。ただ余の經驗は僅か二三の兒童に就きて之を檢せしのみなれば一般父母の

實驗に待つこと切なり。因に余が實物を指點して其の答を求めたる草木は左の數種なり。一般會員諸君が兒童に就きて之を問ひ試みその結果を報道せられんことを望む

一	ケヤキ	欅	十	モミ	樅
二	エノキ	榎	十一	ヒロラギ	柊
三	クリ	栗	十二	ヒバ	杜松
四	クヌキ	柯	十三	カキ	柿
五	カシ	樫	十四	ハジ	黄櫨
六	ヒノキ	檜	十五	ムクゲ	槿
七	カツヤマキ	高野槇	十六	コウゾ	楮
八	ナラ	楢	十七	カナメ	扇骨木
九	ツゲ	黄楊	十八	ドクダミ	蕺天星

以上の中栗は毬果の附着せるものをば正當に答へ得たれどもその他は何れも之を知らず。柯に果實の附着せるをばドングリの樹と呼べり。更に田畑に作れるものの中實物を知らざるもの左の如し。

一	ハウレンサウ	菠薐草	六	キンゲン	曜元豆
二	ゴバウ	牛蒡	七	チカボ	陸稻
三	ミツバ		八	ツケナ	漬菜
四	アハ	粟	九	ソバ	蕎麥
五	モロコン	蜀黍			

（兒童研究）